

2024年3月25日発行

宮城県美術館 高精細レプリカ名作展

当館では、所蔵品を最新技術でスキャンしたデータをもとに、色彩や質感の再現性に優れた高精細レプリカを作成しました。本展は高精細レプリカの展示によって、当館を代表する高橋由一やカンディンスキーなどの名作を、身近にお楽しみいただけるよう企画しました。県内4カ所で開催しますので、ぜひお近くの会場にご来場ください。

各会場で、創作活動を中心としたイベントや、学芸員によるギャラリー・トークも開催します。



参考：宮城県庁1階ロビー展示の様子(2/26～3/1)

会場		関連イベント (栗原・気仙沼)	
in 栗原	6月14日(金)～6月23日(日) 10:00～17:00 (最終日は15:00まで) *6月17日(月)休館	栗原文化会館 (アポロプラザ)	イベント 実施日 6月15日(土)
in 気仙沼	6月29日(土)～7月4日(木) 8:30～17:00 *7月1日(月)休館	気仙沼市 はまなすの館	イベント 実施日 6月29日(土)
in 蔵王	7月13日(土)～7月21日(日) 9:00～17:00 *休館日なし	蔵王町ふるさと 文化会館 (ございんホール)	イベント 実施予定*
in 丸森	10月5日(土)～10月13日(日) 10:00～16:00 *10月7日(月)休館	丸森町資料展示 収蔵館 まるもりふるさと館	イベント 実施予定*

オープンアトリエ 10:00～16:00	対象:どなたでも	だれでも自由に、お絵描きや木工などの創作活動に取り組みます。
キッズ・プログラム 「まねっこお絵描き」 10:00～11:30	対象:おおむね10歳以下のお子さん とご家族	レプリカをよく見て、まねしてお絵描きします。枠を付けて、絵画風にしてお持ち帰りいただけます。
ギャラリー・トーク 13:00～13:45	対象:どなたでも	担当学芸員が、当館の所蔵品や美術館についてお話しします。
ワークショップ 「レプリカの仕組み実験」 14:00～15:30	対象:16歳以上	写真撮影と簡単な作業を通じて、高精細データから作られたレプリカの仕組みを実験するプログラム。

*蔵王及び丸森の関連イベント実施日と内容は次号以降でお知らせします。 *予約は不要です。当日、開催時間にお越しください。

移動美術館 佐藤忠良展

宮城県出身の彫刻家・佐藤忠良(1912～2011)が手がけた代表作《群馬の人》、《帽子・夏》をはじめ、子どもをモチーフにしたブロンズ彫刻を中心に、移動美術館を開催します。会場では、当館が所蔵する、石巻ゆかりの高橋英吉(1911～1942)、柴田ゆかりの小室達(1899～1953)の彫刻作品もあわせて展示いたします。会期中にはギャラリー・トークやワークショップなどの関連イベントを予定しています。



佐藤忠良《ふざけっこ》1964年

石巻市博物館
2024年8月3日(土)～
9月29日(日)
しばたの郷土館
資料展示館「思源閣」
2024年10月19日(土)～
12月15日(日)

まちなか美術講座 宮城県美術館コレクションものがたり

宮城県美術館と東北工業大学で共催している「まちなか美術講座」。

令和6年度のまちなか美術講座では、当館の40年以上の歴史の中で収集されてきたコレクションの特徴やつながりについてお話しします。

【会場】東北工業大学一番町ロビー2階ホール
仙台市青葉区一番町1-3-1(ニッセイ仙台ビル)
【定員】50名(先着順、申込不要)

竹久夢二《港屋絵草子店》1914年 天江・島田コレクション



2024年6月1日(土) 13:30～15:00	洲之内コレクションだけじゃない! —名前の付いたコレクションの話—	講師:土生和彦 (当館 学芸員)
2024年8月31日(土) 13:30～15:00	「こどもの絵」の美術史 —パウル・クレーを中心に	講師:柴野倫子 (当館 学芸員)
2024年10月26日(土) 13:30～15:00	東北の宮城県美術館 日本画コレクション	講師:菅野仁美 (当館 学芸員)
2024年12月14日(土) 13:30～15:00	近代絵画の風景散歩 —所蔵作家の描いた場所(東京付近)を辿る	講師:加野恵子 (当館 学芸員)

休館中の当館の情報については、WEBサイトも併せてご覧ください

<https://www.pref.miyagi.jp/site/mmoa/>



休館中も
展示中!

2月9日(金)～20日(火)にかけて、東北工業大学一番町ロビー1Fギャラリーにおいて、当館所蔵作品の高精細レプリカによる展示を行い、多くの方にご来場いただきました。長期休館中も美術館の事業に関心をもってもらうため、今後も県内施設での展示を予定しています。(裏表紙イベント情報をご覧ください)



宮城県美術館はリニューアル工事のためただいま休館中です。

休館中の教育普及事業 —学校アウトリーチ!

遠方のため美術館に気軽に来られない県内の学校に当館スタッフが出向き、図工・美術の枠組みで「鑑賞」や「表現」の授業を行う「学校アウトリーチ」を実施しました。令和5年度は、小中学校13校を訪問しました。今号では、その中から2校を選んで授業の様子をお伝えします。

“高精細レプリカ”で鑑賞授業!

実際に美術館に来館すると本物の作品と出会うことができます。

しかし、本物の作品はとてもデリケートなので、周りの温度を調整したり、専門のスタッフが運んだりする必要があるため自由に動かすことができません。

そこで、学校アウトリーチでは、当館の収蔵作品を最新技術でスキャンしたデータを用いて制作した「高精細レプリカ」を鑑賞用教材として活用しました。

ネコの履歴書(ネコ紹介)

授業[その1]

- 実施校：加美町立西小野田小学校 ●実施日：2023年12月7日(木)
- 対象：3、4年生(合同)

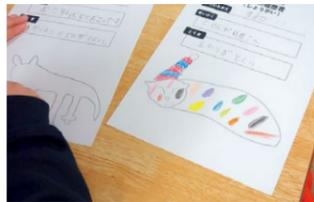
授業で使用したレプリカは、長谷川瀧二郎の《猫》です。作者の長谷川さんが飼っていた愛猫の寝姿を描いた作品。レプリカを見せる前に作品タイトルだけを伝え、《猫》というタイトルからどんな猫の絵かを想像してもらいました。「寝ている猫!」「外にいる猫!」などの発言が飛び出しました。そして、レプリカが入った箱を開け絵柄を見せると「かわいい!」と教室中に歓声があがりました。



長谷川瀧二郎《猫》を鑑賞

その後、作品を見て想像したこと、発見したことなどを自由に発言してもらいました。例えば、「カーベットで寝ているみたい」「ソファで寝ているかも」という想像や、「目のところにも模様がある」など細かい表現にもよく気が付いてくれました。

鑑賞後、この猫には作者の考えた履歴書が存在することを説明し、その中身を紹介しました。名前がタローであることや、体重・身長、特技などを伝えました。この履歴書にならって、自分たちで想像上のネコの履歴書をつくることに挑戦しました。



想像上の「ネコの履歴書」を作成中

完成後、自分のネコを紹介したい児童に発表してもらいました。「のんびり屋で、玉のりが得意」「人なつこくて、ジャンプが得意」「おおざっぱな性格で、遊ぶのが大好き」などユニークなネコの履歴書がたくさん誕生しました。

授業後の児童の感想には、「作品を見るだけでなく、自分達でかいたりしてすごく楽しかった」「絵の見方を知れてうれしかった



みんなの前で履歴書を紹介

です。美術館が開いたら家族みんなで行きたいです」などがありました。想像することで鑑賞が楽しめること、また、他の児童が描いたものを見ることで、自分とは異なる表現に新たな気づきが生まれたようです。

(教育普及部 関口詩乃)

描かれたポーズに挑戦!

授業[その2]

- 実施校：栗原市立栗駒中学校 ●実施日：2023年11月30日(木)
- 対象：3年生

授業では、松本峻介《画家の像》のレプリカを使用しました。今回制作した高精細レプリカの中でも一番大きな作品で額を含めると高さが約180cmもあり、その大きさから細かく描かれた背景にも目が向きます。メインで描かれている3人の人物同士の関係性を想像し「家族ではないか?」と推測する生徒や、背後の建物や乗り物の様子から戦争や政治的な雰囲気を感じるという生徒、全体的な色味について言及する生徒など、真剣に作品を見つめる姿が多く見受けられました。



作品の近くでじっくりと鑑賞

作品を鑑賞した後は、グループに分かれて人物のポーズを真似て写真を撮る表現活動を行いました。モデルと撮影者に分かれ、撮影者はポーズについてあれこれと指示を出し、一度撮影した写真をみんなで見てさらに修正するなど忠実に再現しようという様子がどのグループにも見られました。顔や手などのパーツのみを再現しているグループもありました。



ポーズを指示しながら撮影中

撮影したポーズ写真を全体で鑑賞

撮影後は、全グループの写真を鑑賞し、工夫されている点などを講評し終了しました。

生徒からは、「鑑賞は難しいイメージがあったが、ポーズを真似したり、細かいところを見たり、想像するのが楽しくて、美術作品を身近に感じることができた」「絵と同じポーズをすることで見るだけではわからない作品の中の気持ちが想像できた」「あんなに大きな作品を見たのは初めて。レプリカだけど本物のような作品が見られてよかった」などの感想が聞かれました。レプリカではありましたが、美術館経験の少ない生徒たちにとっても、実物大のサイズを実感し、また描かれた人物のポーズを真似てみる経験を通じ深い鑑賞体験へと誘えたことがうかがえました。

(教育普及部 郷泰典)

所蔵作品ここで!

※展覧会の詳細は各会場にお問い合わせください。

当館コレクションによる展覧会

令和6年度、当館の代表作品をご覧いただける下記2つの展覧会を全国の美術館で開催します。

宮城県美術館コレクション 絵本のひみつ展
ひろしま美術館 2024年7月6日(土)～8月18日(日)

響きあう絵画 宮城県美術館コレクション
カンディンスキー、高橋由一から具体まで
神戸ゆかりの美術館 2024年10月5日(土)～2025年1月26日(日)
久留米市美術館 2025年2月8日(土)～5月11日(日)

作品貸出情報

下記の展覧会に当館の所蔵作品を貸し出しています。

春陽会誕生100年 それぞれの闘い
岸田劉生、中川一政から岡鹿之助へ
長野県立美術館 2024年3月16日(土)～5月12日(日)
碧南市藤井達吉現代美術館 2024年5月25日(土)～7月7日(日)

『シュルレアリスム宣言』100年 シュルレアリスムと日本
板橋区立美術館 2024年3月2日(土)～4月14日(日)
三重県立美術館 2024年4月27日(土)～6月30日(日)

脇田和と佐藤忠良—子どもへのまなざし—
石川県立美術館 2024年4月24日(水)～5月26日(日)

コレクション・コラム

ヴァシリー・カンディンスキー

《「E.R.キャンベルのための壁画No.4」の習作(カーニバル・冬)》

1914年 69.8×48.4cm 厚紙、油彩

画面いっぱいに広がる鮮やかな色彩が印象的なこの作品は、抽象絵画の創始者のひとりといわれるカンディンスキーの作品です。ちょっと長めのタイトルは、実は作者自身が付けたものではありません。まずは、この作品がニューヨークの企業家・E.R.キャンベルから注文された4枚組壁画の下絵(習作)のひとつであること。さらに後世の研究者によって壁画が季節を表した連作

であると解釈され、この画面が冬にあたるとして「カーニバル・冬」と称されてきたことから、このタイトルで呼ばれているのです。一方で、画面に現れる様々な「かたち」から宗教的な主題を読み取る説もあります。作者が内容について何も語っておらず、解釈が諸説あるこの作品、皆さんの目にはどのように映るでしょうか。

(学芸部 土生和彦)

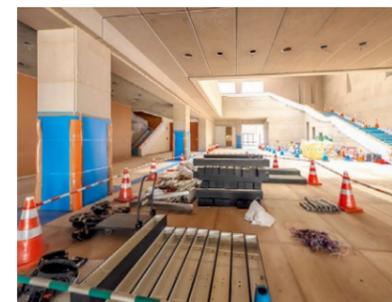


※この作品は、令和4年度に高精細デジタル記録を行ったもののひとつです。当館のWEBサイトで拡大画像をご覧いただけます。

リニューアル工事の様子

当館のリニューアル工事が始まりました

現在館内各所では、建物の床や柱、屋外彫刻を保護した上で、解体工事などが行われています。



本館エントランス



外構部分



正面玄関の自動ドア